

4 社会に生きる一員として
 (7) 学校や仲間への誇りをもつ

P.194~199

4-(7)

学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。

1 この内容項目のページの特徴

生徒にとって学校で過ごす時間は、日々の大半であり、学級や学校は重要な生活の場となっている。そこで多くの友と出会い、様々な貴重な経験を積み、人間としての成長を遂げていく。しかしながら、中学生にとって、自分の学級や学校への関心や、よりよい学級や学校づくりへの意欲は必ずしも十分とは言えない。そこで、本内容項目のページを活用して学級や学校に対する生徒の関心を高め、学校との関わりについて見つめ直す機会としたい。

一九九ページの合唱曲「旅立ちの日に」は、一九八ページのコラムにあるように、全国の多くの中学校の卒業式で愛唱される歌である。この歌を通じ、仲間との思い出を胸に、これからの人生を切り拓いていこうという希望をもつことの大切さや、学校生活は教師と生徒、生徒同士の深い信頼関係で成り立っていることなどに気付くことができる。これらのページを活用して、学校の一員としての自覚を深め、よりよい校風の樹立と発展に努める態度を養いたい。

2 活用のポイント

学校には長年にわたって先輩たちが築いてきた独自の校風があり、それを後輩たちが継承し、協力し合ってよりよい校風へと発展させてきた。中学生にとって、学級や学校に対して愛着や誇りをもつことは大切なことであ

り、本内容項目のページを活用して、学校の伝統やよさを見つめ、仲間と力を合わせて、自分たちの学校をよりよくしていこうとする態度を育てたい。

3 活用場面例

道徳の時間

コラム「旅立ちの日に」は、道徳の時間の補助的な資料として活用することができる。それぞれの学校には、学び舎で出会うかけがえのない人々との関わりがあり、共に培ってきた伝統や校風がある。自分たちの学校を改めて見つめ、そのよさを後輩へ伝えていきたいという思いを高めていくようにしたい。

事例

- ① コラム「旅立ちの日に」を読み、楽曲誕生の背景を知る。
- ② 合唱曲「旅立ちの日に」の歌詞を読み、楽曲を聴く。この楽曲に込められた願いや思いを考え、一九九ページに、感じたことや考えたことを書いて発表する。
- ③ 卒業生または在校生の先輩から、自分たちの学校の伝統や校風についての話を聞く。(ビデオレター形式でもよい。)
- ④ 先輩に伝えていきたい自分たちの学校の伝統や校風について話し合う。

音楽科

一九九ページの合唱曲「旅立ちの日に」の歌詞の内容や曲想から感じ取ったことと、音楽的な特徴とを関わりながら表現を工夫し、仲間への思いや学校への愛着を感じて歌う。

事例

- ① 歌詞の内容や曲想を味わう。
- ② 曲にふさわしい表現を工夫し歌う。
- ③ 全員で合唱をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合う。

特別活動(生徒会活動)

一九六ページの「後輩に伝えたいこと」を活用し、卒業の前に後輩に伝えたいメッセージについて話し合う。そのメッセージを全校集会で伝え、生徒同士の人間関係を深めて、先輩の思いを受け継ぎ伝統を守っていこうとする意欲を高める。また、一九七ページの「学校を良くするために」を活用し、意見を集め、それを生徒会通信等で発信するなどして、自分たちの学校をよりよくするために取り組んでみたいことをまとめていくようにする。

家庭や地域との連携

一九五ページの「自分と学校との関わり」を活用し、家庭や地域の人と校風について語り合う。家庭や地域の人と共に、学校の歴史や伝統に触れる機会を増やすことで、伝統を受け継ぎ、よりよい校風を築いていこうとする態度を養うとともに、家庭や地域で自分たちを支えて見守り、励ましてくれる人々への感謝の思いを育む。

◆コラム「旅立ちの日に」

合唱曲「旅立ちの日に」の歌詞には、様々な願いが込められている。歌詞を何度も繰り返し読むことで、その心情が伝わってくる。

中学校を巣立っても、共に過ごした日々の思い出が、いつまでも生徒たちの心のより所として、心の中に生き続けている。この歌詞をかみしめることで、学校というものを改めて見つめて、生徒たちの学校に対する愛着を深め、これからの関わりに生かしていく。

コラム「旅立ちの日に」の活用にあたっては、まず合唱曲「旅立ちの日に」が誕生した背景を知る。

そして、この歌には教師のどのような思いが込められているか、生徒たちはどのような思いでこの歌を歌っていたのかなど、様々なことを考えながら歌詞を読んでいきたい。

さらに、自分たちの学校を見つめ、学校の一員としての自覚を深めていきたい。また、教師や学校の人々への感謝や尊敬の気持ちも育んでいきたい。

4 社会に生きる一員として
(8) ふるさとの発展のために

P.200~205

4-(8)

地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。

1 この内容項目のページの特徴

中学生にとっては日々を暮らすその地域は、大切な生活の場であり、郷土である。本内容項目は、地域に目を向け、郷土を愛し、その発展に寄与しようとする態度を育むものである。本内容項目のページを活用することによって、地域社会に対して様々な視点から思いを深め、郷土を愛し、その発展に努める態度を養っていききたい。二〇三ページでは、ふるさとの発展に貢献する具体的な事例を通して、また、二〇五ページの「メッセージ」では、様々な人のふるさとに対する思いに触れながら、郷土に対する認識を深めていくようにしたい。

2 活用のポイント

中学生の時期は、自分が自分だけで存在していると考へがちであるが、そのような中で家族や社会に尽くした先人や高齢者によって自分が支えられて生きていることを自覚し、それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深めることは極めて大切なことである。指導に当たっては、本内容項目のページを活用し、地域よさや人々の関わりなどについて考えさせ、郷土に対する認識を深めていく。その上で、自分にできるふるさとへの貢献の方法を考えさせるなど、郷土の発展に努める自発的な態度を養いたい。

3 活用場面例

道徳の時間

「人物探訪」や「メッセージ」を活用し、地域の発展に尽くした先人の思いや、自分とふるさとの関わりについて考える。

事例

- ①二〇〇から二〇二ページを読み、ふるさとへの思いについて話し合う。
- ②読み物資料を読んで話し合う。
- ③二〇四・二〇五ページの「人物探訪」や「メッセージ」を読んで、濱口梧陵や多くの人々の言葉に込められた思いについて話し合う。
- ④二〇三ページを活用し、地域の課題を話し合い、ふるさとの発展のために自分たちができることについて考えをまとめる。

音楽科

B鑑賞「(1)ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り鑑賞すること。」(第一学年)、「(1)ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。」(第二学年及び第三学年)の指導に当たって、本項目のページを活用する。

事例

- ①我が国や郷土の伝統音楽と諸外国の様々な音楽を比較して聴き、感じ取ったことを発表したり、その共通点や相違点、あるいはその音楽だけに見られる固有性について話し合ったりする。
- ②保存会など地域の人々による郷土の伝統音楽の演奏を聴く機会をつくり、生徒が感じ取ったよさを伝えたり地域の人々の思いを聞いたりする。
- ③二〇〇・二〇一ページを読み、郷土の伝統音楽がその地域の人々の暮らしと共にあることに着目しながら、その音楽のよさや魅力について自分なりの考えを発表し合い、味わって聴く。

総合的な学習の時間

地域の課題を解決し、地域の活性化に取り組み学習活動などでは、二〇三ページを活用することができる。また、地域の安心・安全のための防災などについて探究的に学習を行う場合には、二〇四ページの「人物探訪」を活用することができる。

特別活動（生徒会活動）・家庭や地域との連携

ふるさとのよさなどについて、二〇一ページに書き込み、郷土に関する様々な思いや気付きを発表し合う。様々な考へを知ることによって、郷土への思いを深め、地域社会の一員としての自覚を深めることができる。

事例

- ①二〇〇から二〇五ページの文章を通し、地域のよさや自慢、課題やその解決策などを記入し、発表し合う。

- ②①で記入したことを基に、近隣の中学校の生徒会代表が集まり、郷土についての意見交流を行い、地域の活性化や、郷土の発展のための取組について話し合う。
- ③生徒会代表で話し合ったことを基に、家庭や地域の人と共に郷土発展のための企画を構想し、実践化を図る。

◆人物探訪〈濱口梧陵〉

「住民百世の安堵を図る」

「稲むらの火」の逸話として、今でも多くの人に語り継がれている濱口梧陵の生き方に触れ、郷土に尽くした先人や高齢者への尊敬と感謝の気持ちを育む。

梧陵が、莫大な私財を投じて、大地震による津波の壊滅的な被害からの復興を支え、人々の暮らしの安定を計り、郷土の発展に尽くした動機について話し合う。「住民百世の安堵を図る」という言葉に込められた梧陵の思いから、人と郷土との関わりについて考えを深めさせたい。

◆メッセージ

二〇五ページに掲載されているのは、平成十年度当時、福井県丸岡町（現・坂井市）で募集されていた「ふるさとへの想い」の応募作品である。ふるさとへの素直な思いを味わうことで、郷土に対する愛着を深めていくことができる。

4 社会に生きる一員として

(9) 国を愛し、伝統の継承と文化の創造を

P.206~211

4-(9)

日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。

1 この内容項目のページの特徴

国の発展に寄与する気持ちを高め、伝統の継承と文化の創造に貢献しようとする態度を養う内容項目である。二〇六・二〇七ページでは日本の伝統や文化について、また日本らしさについて考えることのできる内容が掲載されている。さらに、二〇八・二〇九ページは、伝統や文化の継承者としての自覚を深める内容になっている。

本内容項目のページを活用しながら、我が国について広い視野から認識を深めるとともに、我が国固有の優れた伝統と文化などについて理解を深め、その価値を継承し、新たな文化を創造していこうとする態度を養いたい。

2 活用のポイント

中学生の時期になると、日本の風土や歴史に対する理解が深まり、伝統と文化に対しても一層関心をもつようになる。この関心を高め、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献しようとする態度を育成するようにしたい。指導に当たっては、排他的なものの方や考え方に陥ることのないよう配慮し、我が国の伝統と文化を誇りをもつて世界や後世に伝えようとする意欲をもち、国際社会の一員として世界の平和と安定に寄与していこうとする思いを育てていきたい。

3 活用場面例

道徳の時間

本項目のページを活用して、広い視野から日本についての認識を深め、優れた伝統と文化について知り、その価値を受け継いで新たな文化を創造しようとする態度を養う。

事例

- ① 二〇七ページを活用し、日本の伝統と文化、その特徴について考え、日本に対する意識を確認する。
- ② 日本の伝統と文化の継承に関わっている人(ゲストティーチャー)から、日本の伝統と文化の特徴や、その継承に努める思いを聞く。
- ③ ゲストティーチャーから聞いた話を基に、二〇八ページを活用して、自分が紹介したい日本の文化をグループで話し合う。

社会科(歴史的分野)

飛鳥文化の学習の際に、二二〇ページの「人物探訪」を読むことで、およそ一四〇〇年前の伝統と文化を現在にまで受け継いできた人々の思いと生き方に触れることができる。

世界最古の木造建築である法隆寺は世界遺産となっている。法隆寺を支えてきた棟梁たちの思いや生き方、そして、

現在もなおその思いを守り受け継ぐ人がいることを知り、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めることができる。

数学科

二〇七ページの「算額」を活用し、数学に対する関心を高めることができる。「算額」を絵馬として奉納する習慣は、日本独特の文化であることを紹介したり、図形の学習の発展的な学習として、「算額」におさめられている問題に挑戦したりすることも考えられる。身近な地域の「算額」を紹介し、先人の築いた優れた文化を知ることができる。

美術科

鑑賞の学習において、身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、二〇七ページの文章や問いを活用して、そのよさや美しさ、受け継がれてきた独自の美意識や創造の精神などを感じ取る。各学年に応じて、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、美術文化やそれらの継承と創造への関心を高めることができる。

◆この人のひと言

「われわれの歴史の中にわれわれの未来の秘密がかくされている。」

岡倉天心のこの言葉は著書『東洋の理想』に収められている。岡倉は西洋文化の波が急速に押し寄せて来た明治時代に、日本の伝統美術のすばらしさに目を向け、近代日本美術の発展に力を注いだ。また、英文で『茶の本』を出版し、日本の文化を欧米に紹介するなど、国際的な視野に立って活動した。英文で出版された『茶の本』は今ではスウェーデン語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などをはじめ各国の言語に翻訳されている。

この言葉をきっかけに、日本の国土や歴史に対する理解を一層深めるとともに、伝統や文化に対する関心を高め、日本人としての自覚と誇りをもとうとする態度を育成することにつなげたい。

◆人物探訪(西岡常一)

「木を生かすには、自然を生かさねばならず、自然を生かすには自然の中で生きようとする人間の心がなくてはならない。」

飛鳥時代から受け継がれてきた寺院建築の技術を後世に伝え、「最後の宮大工」と呼ばれた棟梁西岡常一は、祖父も父もまた法隆寺の宮大工棟梁であった。祖父の勧めで農業学校で三年間農業を学び、檜の原木の見分け方や地質調査といった知識・技術的なことと同時に生命の尊さや自然の偉大さを学んだ。一三〇〇年の技を途絶えることなく伝承してきた西岡の姿勢や思いを知ることによって、優れた文化に誇りを持ち、伝統の継承と新しい文化の創造に対する意欲を高めることができる。

4 社会に生きる一員として
 (10) 日本人の自覚をもち世界に貢献する

P.214~225

4-(10)

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立つて、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

1 この内容項目のページの特徴

国際化が進展する中で、国際的視野に立ち、世界の中の日本人としての自覚をもつことが必要となっている。本内容項目のページでは、真の国際人として生きるとはどういうことかを具体的に考えさせるとともに、二一八ページの嘉納治五郎の「人物探訪」や、二一九ページの緒方貞子氏の「メッセージ」を活用して、自分の生き方を振り返りながら国際社会に貢献しようとする積極的な生き方について考えさせる構成となっている。

2 活用のポイント

中学生の時期は、国際的な出来事への興味や関心が高まるとともに、世界の国々の人々と様々な形で関わる機会も増えていく。今後、ますます国際的な関係を深めていく社会の中で生きていく中学生にとって、今の段階で国際的な視野と国際社会で生きることの大切さを自覚することは重要なことである。

本内容項目のページを活用し、国際社会に生きる一員として日本人としての自覚をもつことの大切さを理解させ、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を育むようにしたい。

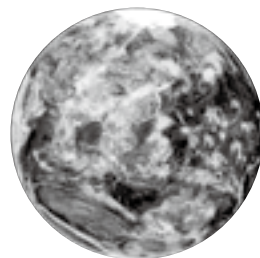
3 活用場面例

道徳の時間

世界の国々にはそれぞれ独自の伝統と文化があり、それぞれに誇りをもっていることを踏まえ、多様な文化に対する理解と尊敬の念を育む。また、「世界の平和と人類の幸福のために、日本人として、私たちにできること」について、二一七ページの書き込み欄を活用して考えることもできる。

事例

- ① 二一四ページを読んで、世界の中の日本人として、自分は何を考えていけばよいのか、また、何ができるのかなどについて考える。
- ② 読み物資料「海と空 ―檉野の人々―」を読んで話し合う。
- ③ 「世界の平和と人類の幸福のために、日本人として、私たちにできること」について、二一七ページの書き込み欄に記入して話し合う。その際に、二一九ページの緒方貞子氏の「メッセージ」を活用し、国際貢献について考えを深めることもできる。



総合的な学習の時間

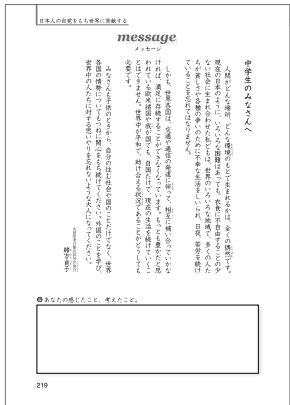
国際理解などの横断的・総合的な課題についての学習活動において、二二二・二二三ページや二二五ページを活用することができる。

国際社会においてどのような貢献が求められているかを考え、そのための行動について探究的に学習していくことが考えられる。

◆メッセージへ中学生のみなさんへ

緒方貞子氏は、一九九一年から十年間、国際連合難民高等弁務官を務め、世界の難民問題解決に貢献した国際政治学者である。

「日本は、国際的な貢献、国際的な関与を心掛けて五十年の戦後を歩んできたと思います。国際社会に対する積極的な開放、承認そしてまた協力の姿勢を、難民のことを考える上でも、ぜひ今後の日本の課題としていただきたいと思います。」という記念講演の言葉がある。緒方氏は日本人で初めてユネスコ平和賞を受賞した。



P.219

◆人物探訪へ嘉納治五郎へ

「オリンピックを真に世界の文化にせねばならない」真の国際人として求められる生き方という視点から嘉納治五郎の生き方に触れ、「オリンピック精神と、自らが説く武道的精神の融合によって、オリンピックを真に世界の文化にしたいという強い思い」について具体的に考えさせることが大切である。

嘉納が多くの流派に分かれていた柔術から「柔道」を編み出したこと、講道館を設立したこと、柔道を世界のスポーツにする基盤を作ったことなどを知ることができる。また、嘉納が「柔道」に求めたものは何か、真の国際人に求められるものは何かなどについて考え、その生き方に迫るようにしたい。

嘉納が「精力善用・自他共栄」の精神を、西洋のスポーツ文化に紹介することが世界平和につながる信じていたことを取り上げることができる。

また、保健体育科（体育分野）における柔道の学習の導入として、このページを活用することもできる。



P.218

1 資料の特性

国際化の進展の中で、真の国際人として、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、公正、公平に接する生き方が求められている。そのためには、日本人としての自覚をしっかりともち、その上で国際的視野を広げていくことが大切である。

本資料は、一九八五年のイラン・イラク戦争の渦中、テヘランからの脱出の手段を失っていた邦人たちが、トルコ政府から提供された「救いの翼」によって無事に帰国できたという実話に基づき構成されている。

脱出の当事者である主人公は、帰国後、トルコ政府の厚意の背景に、一八九〇年のトルコ船籍エルトゥール号遭難の際の和歌山県串本の人々の献身的行為があったことを知り、百年の時を経てもなお、その恩恵に報いようとしたトルコの人々の温情に胸を打たれる。このことから、国と国との関わり、ひいては国際的規模の相互扶助の在り方に思いを馳せることができる。

世界の平和と人類の幸福に貢献することが大切であることを感じ、真の国際人としての生き方を考えさせることのできる資料である。

2 指導上の留意点

中学生になると、教科の学習などを通して国際的な問

はどのようなことを思っていたのだろうか。

- ・ 私の命は樫野の人々によって今ここに有るのだなあ。
- ・ 二つの救出は、何の見返りも期待せずに、危険に陥った人々を助けようとする人間愛そのものだ。
- ・ 同じ人間として互いに尊重し合う心をもつことが、世界平和のために大切なことだ。
- ③ 国際社会の一員として、世界との関わりの中で、自分たちにできることやしてみたいと思うことについて話し合う。

事例②

国際的規模の相互扶助のために大切なことについて考える展開

【主な学習】

- ① どのような思いから、「私」は、エルトゥール号遭難の顛末を知らなければならぬと思ったのか。
- ・ トルコの人々が親目的になった理由である樫野の人々の話とは何なのか。そこに樫野の人々のどのような思いがあったのかを知りたいと思った。
- ・ 国と国との関わりにも影響するほどの出来事は何なのか。それを知らなければこの疑問は消えないという思い。
- ② 「長年の疑問が氷解していく」という「私」の言葉には、どのような思いが込められているだろうか。
- ・ 樫野の人々の国を越えた救助が、今も親日感情としてトルコの人たちの心に生きていることが分かった。
- ・ 自国の国民よりも優先して、日本人を救助したトルコの人たちの心が理解できた。
- ・ 私たちは国際的規模の相互扶助によって助けられている。国の別なく、互いに助け合ってこそ世界の平和や

題についての関心が高まる。同時に、情報社会の中で、諸外国の出来事についても多くの知識を得るようになる。一方で、目の前にある情報だけにとらわれて物事を判断する傾向もあり、その背景にある事情までは、なかなか考えが及ばないこともある。

平成二十三年の東日本大震災の際、日本は多くの国々から支援を受け、国際的な相互扶助の関係を一層深めた。中学生にとって、国際的な視野と国際社会で生きる力を身に付けることは、これからの社会を生きていく上で、これまで以上に大切なことである。そうしたことを踏まえ、世界の平和と人類の幸福に貢献する真の国際人の姿を考えていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、同じ人間として尊重し合おうとする意欲を育てる。

事例①

国際的視野に立って、他の国の人々と尊重し合うことについて考える展開

【主な学習】

- ① 遭難したエルトゥール号に乗っていたトルコの人たちを助けた樫野の人々は、どのような思いでそうしたのか。
- ・ 困っている時に助けるのは当たり前。
- ・ 人の命に国の違いはない。同じ人間だ。
- ② 海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、「私」

人類の幸福が築かれていくものなのだ。

- ③ 国際的規模の相互扶助のために大切なこととは何か。
- ・ 国の別なく困っている状況を助けようとする気持ちと行動が大切。
- ・ 東日本大震災のときのように、国を越えて助け合おうとすることが大切。その思いは、国の別なく人として大切なこと。

四の視点 重点ページ

日本人としての自覚をもって
真の国際人として世界に貢献したい

P.212~213

1 ページの特徴

四の視点に関わる重点化「国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすること」に関するページである。
日本の伝統と文化について理解を深めるとともに、国際社会の中で貢献している日本人の姿を通して、国際人としての在り方を考えさせたい。

2 活用事例

■道徳の時間

写真から、我が国の優れた伝統文化や科学技術が海外からも評価されていること、世界に貢献し、活躍している日本人が多くいることに気付くことができる。また、それぞれの写真の事柄について調べるなど発展的な学習も可能である。